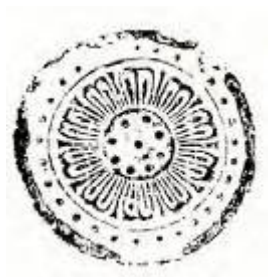


大分市歴史資料館年報

(平成 27 年度)



2016

はじめに

平成 27 年度の大分市歴史資料館年報をお届けします。本年度の展示事業では、「郷土の宝箱－収蔵指定文化財－」・「戦時下のくらしと戦後復興－銃後を生きた子どもたち－」・「中世豊後府内の職人たち」の 3 回のテーマ展示と特別展「日本犬聞録－イヌと人の歴史－」を開催しました。

特別展では、「人類の友」とも呼ばれ、現在では家族の一員として大切にされている姿も見られる犬と人とのさまざまなつきあいの歴史を、銅鐸や埴輪、絵画、また『日本書紀』等、日本各地の遺跡からの出土品や犬に関わる作品・資料を通して紹介しました。また、愛犬との写真コンテスト作品や「犬のゆるキャラ大集合」と題して、全国の自治体や博物館関係の犬のゆるキャラをパネル紹介するコーナーも設け、子どもから大人の方まで楽しんでいただくことができました。

教育普及事業では、昨年と同様、考古・歴史・民俗文化史・古文書の「ふるさとの歴史再発見」講座をはじめ、土偶作り・粘土はにわ作り・土笛作り・勾玉作りなどの「体験講座」を実施するとともに、新たに「織物作り」の体験講座を行いました。この織物作りでは、多くの成人女性が受講され、その参加者の多くからたいへん喜んでいただきました。

また、3 年目を迎えた「まちかど歴史展示館」では、26 年度に引き続き市内の中学校を中心に、公民館、大分銀行ドームなどを巡り、多くの方々にご覧いただきました。

今後とも魅力ある事業内容を図りながら、多くの方々に楽しんで学習してもらえる資料館づくりに向けて職員一同、頑張って参りたいと思います。

平成 28 年 7 月 26 日

大分市歴史資料館
館長 武富雅宣

目 次

展 示	1
テーマ展示 特別展 その他の展示 まちかど歴史展示館	
資料調査	13
資料収集	19
教育普及活動	26
歴史資料館利用状況	32
管理及び運営	33
歴史資料館協議会 組織機構・分掌事務・職員・歳入歳出 施設管理業務の内容	
施設の概要	34
利用案内	35

展 示

(1) テーマ展示

第1回 「郷土の宝箱－収蔵指定文化財－」

会期 4月18日(土)～6月28日(日)

開館日数：61日 入館者数：2,993人

大分市には現在、数多くの文化財が伝えられている。それらは、長い年月の中で育まれた大分の歴史や文化の特色を雄弁に物語っている。大分市歴史資料館は開館以来、それら貴重な資料を収集し、保管・展示してきた。

現在、歴史的価値の高い全54件の有形文化財が市の指定を受け、その内12件が当館に所蔵及び寄託されている。

本展では、これら12件の市指定有形文化財を一堂に展示し、大切に守り継がれてきた本市のお宝を通して、連綿と続く郷土の豊かな歴史や文化を紹介した。

主な展示構成・展示品

〔歴史資料〕御城下絵図／府内藩校遊焉館絵図

〔美術・工芸品〕刀／勝光寺華南三彩貼花文五耳

壺／熊野権現縁起絵巻／波奈之丸屏風

〔考古資料〕「天長九年尼寺」「尼寺」墨書土器／大分市内出土青銅破鏡／大分市内出土青銅器／伝岩屋寺遺跡出土銅戈・石戈／伝名辺山谷出土銅矛／猪野遺跡出土銅矛



テーマ展示室入口



展示風景「府内藩校遊焉館絵図」



展示風景「熊野権現縁起絵巻」



展示風景「波奈之丸屏風」



第2回 「戦時下の暮らしと戦後復興 ー銃後を生きた子どもたちー」

会期 7月18日(土)～9月27日(日)

開館日数：62日 入館者数：3,585人

平成27年は戦後70年にあたる。昭和6年(1931)の満州事変は15年間続く日中戦争・アジア太平洋戦争の始まりとなった。長期化する戦争に対応するため、国は昭和13年(1938)、全ての人的・物的資源を統制し運用する「国家総動員法」を定め、戦場のみならず「銃後」と呼ばれた国内での生活も戦争一色となっていった。

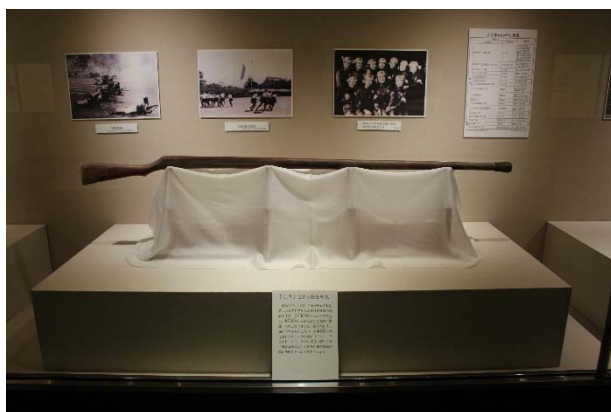
本展では、市内に残された資料から統制下にあった戦時中の暮らしと、家族によせる想いや今なお語り継がれる大分空襲、そして戦後について紹介した。

主な展示構成・展示品

[大分の名所となった歩兵第47連隊] 大分市鳥瞰図(昭和9年)/47連隊除隊記念盃/記章/絵はがき
[「銃後」の子どもたち] 小学国語読本巻五/『少年倶楽部』/木銃/戦時貯蓄債券/金属供出の感謝状/陶製湯たんぽ[兵士への想い] 臨時招集令状/奉公袋/軍隊手帳/千人針/日の丸寄せ書き[大分空襲ー戦火の中の子どもたちー] 防火弾/大分県警防計画書/爆弾破片/銃弾が残った柱/もんぺ/防空頭巾[復興する大分市] 『あたらしい憲法のはなし』/『大分市勢要覧』/『わたしたちの社会』



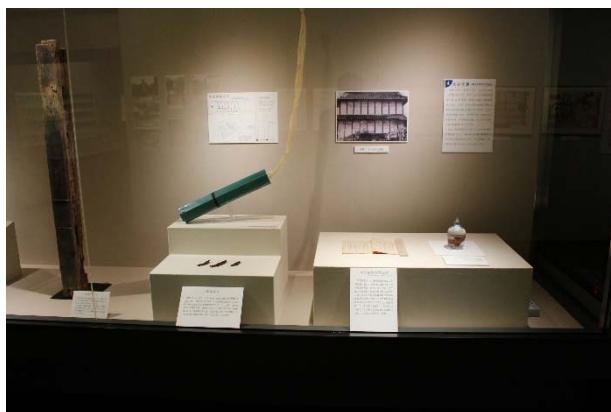
テーマ展示室入口



展示風景「木銃」



展示風景「千人針」



展示風景「防火弾」ほか

大分市歴史資料館 平成27年度テーマ展示Ⅱ

**戦時下の暮らしと戦後復興
ー銃後を生きた子どもたちー**

会期:7月18日(土)～9月27日(日)

(無料)
【展示解説講座】
8月2日(日)
14:00～
※講座参加者は入館料が無料になります。

第3回 「中世豊後府内の職人たち」

会期 1月16日(土)～4月3日(日)

開館日数：67日 入館者数：3,592人

戦国時代の豊後府内は、大友氏主導による南蛮貿易やそれにとまなう西洋文化の流入など、博多や堺と並ぶ、日本でも有数の国際貿易都市として栄えていた。キリスト教の宣教師などの記録によると、約5,000軒もの町屋が立ち並んでいたとも言われており、そのような中、府内の町にはさまざまな技術を持った職人が存在し、彼らの活躍は町の発展の一翼を担い、住民の日常生活を支えていた。

本展では、中世の職人の姿をうかがうことができる「七十一番職人歌合」や中世府内城下町跡からの出土遺物などを通して、活気に満ちた中世豊後府内の町の様子を紹介した。

主な展示構成・展示品

【都市と職人ー七十一番職人歌合の世界ー】七十一番職人歌合／職人絵尽し(模本)

【出土遺物からみた中世豊後府内の職人】壁土／砥石／鍋・鍋弦／曲物／櫛／下駄／硯／賽／権／秤皿／灯明皿／包丁／茶釜／菓研／筋兜[当家中作法日記にみる職人]木の葉型鋸／轆羽口／椀型鉄滓／桶作道具／漆器椀／糸切土師器／京都系土師器／京都産土師器／蛇の目紋付食籠／金属製品／金箔土師器／翁面[ふれあい土器コーナー]



テーマ展示室入口



展示風景「七十一番職人歌合」



展示風景「筋兜」



展示風景「ふれあい土器コーナー」



(2) 特別展

第34回特別展 日本犬聞録－イヌと人の歴史－

犬と人とのつきあいは、非常に長く1万年以上前からだといわれており、今日では「人類の友」とも呼ばれ、家族の一員として大切にされている姿も見られる。

日本の犬の歴史は、縄文時代にはじまり、銅鐸や埴輪、絵画、また『日本書紀』等の書物にも登場し、狩猟犬や番犬、支配者階級のステータスシンボルやペットとして飼われるなどしていた。さらに人々の信仰の対象として崇拝されるなど、それぞれの時代で、常に身近な存在であった。

本展では、日本各地の遺跡からの出土品や犬に関わる作品・資料などを通して、犬と人とのさまざまなつきあいの歴史を紹介した。

また、愛犬との写真コンテスト作品や「犬のゆるキャラ大集合」と題して、全国の自治体や博物館関係の犬のゆるキャラをパネル紹介するコーナーも設置した。

なお、会期中の11月8日(日)に、別府大学学長の豊田寛三氏、大分東明高等学校教諭の長野浩典氏、きつき城下町資料館の細井雅希氏をお招きし、犬をめぐる座談会を開催した。

会期：10月23日(金)～11月23日(月)

会場：第2展示室・テーマ展示室

開館日数：28日 入館者数：5,963人

出品点数：72点

犬をめぐる座談会

日時：11月8日(日) 午後1時30分～4時

会場：資料館講座室

聴講者数：59人



開催式典の様子



式典後の展示解説の様子

平成27年度特別展 (第34回)

日本犬聞録

イヌと人の歴史

会期
10月23日(金)
～11月23日(月)

【09:00～17:00開館】
■日 時 11月8日(日) 午後1時30分～
■基調講演 長野浩典氏(大分東明高等学校教諭)
■テーマ 「日本人とイヌのながいつきあい」
～日本史のなかのイヌ～

■コーディネーター 豊田寛三氏(別府大学学長)
■パネリスト 細井雅希氏(きつき城下町資料館)
中西武尚(当館職員)

■場 所 大分市歴史資料館2階展示室
■料 金 無料 ※参加者は、観覧料が無料になります

【座談会開催時間】
■日 時 11月1日(日) 午後2時～
■料 金 無料 ※受講者は、観覧料が無料になります

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休 館 日 10月26日・11月4日・9日・16日
観 覧 料 大人 300円(中学生 150円) 高校生 100円(小学生 50円)
中学生以下無料(小学生以下は、別途観覧料がかかります)
※観覧料は当日現金で払ってください

〒870-0864 大分市大字国分 960-1 | TEL 0975-549-0880
http://www.city.okinaka.jp/ | 大分市歴史資料館



犬をめぐる座談会の様子

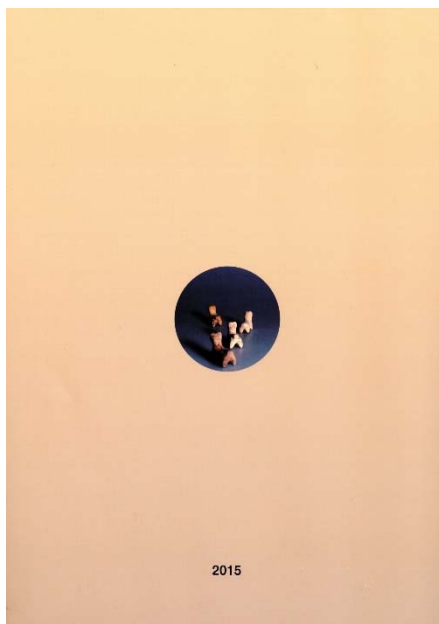
展示構成及び展示品リスト

番号	資料名	遺跡ほか	時代	数量	所蔵者
プロローグ 日本犬のルーツ					
1	イヌの頭蓋骨	佐賀市 東名遺跡	縄文時代早期	1	佐賀市教育委員会
2	イヌの頭蓋骨(2号犬)	大阪府 亀井遺跡	弥生時代	1	(公財) 大阪府文化財センター
3	イヌの頭蓋骨	港区 西新橋二丁目遺跡	江戸時代	1	港区教育委員会
4	イヌの頭骨	—	現代	1	港区教育委員会
5	現代犬の骨格標本	—	現代	1	大分県立歴史博物館
I. 記紀にでてくる犬					
6	『日本書紀』第6巻	最初の犬の名前	写本・江戸時代	1	大分県立先哲史料館
7	『日本書紀』第18巻	犬飼部	寛文9年版 (1669)	1	西寒田神社
8	『日本書紀』第29巻	犬肉の禁止		1	西寒田神社
9	『古事記伝』	白犬の贈り物	文化5年版 (1808)	1	西寒田神社
II. 犬とのつきあい					
10	復元縄文犬「藤丸」	栃木市 藤岡神社遺跡	現代	1	栃木県 埋蔵文化財センター 保管：栃木県立博物館
11	復元弥生犬「海渡」	大阪府 亀井遺跡	現代	1	大阪府立弥生文化博物館
12	イヌの頭骨	栃木市 藤岡神社遺跡	縄文時代晚期	1	栃木市教育委員会
13	◇埋葬されたイヌ			—	
14-1	イヌの頭蓋骨	佐賀市 東名遺跡	縄文時代早期	1	佐賀市教育委員会
14-2	イヌの下顎骨			1	
14-3	オオカミの下顎骨			1	
14-4	イヌの頭骨 (生前喪失歯)			1	
14-5	イヌの寛骨			1	
14-6	イヌの大腿骨			1	
14-7	イヌの上腕骨			1	
14-8	イヌの肩甲骨			1	
14-9	イヌの糞石①～④			4	
14-10	人の糞石			1	
15	イヌの頭蓋骨(1号犬)	大阪府 亀井遺跡	弥生時代中期 ～後期	1	(公財) 大阪府文化財センター
16	イヌの牙で作った ペンダント(牙玉)			1	
17	イヌの頭蓋骨	下郡桑苗遺跡	弥生時代中期	1	大分県教育庁 埋蔵文化財センター
18	イヌの骨	下郡遺跡群	弥生時代中期	4	大分市教育委員会
19	埋葬されたイヌ (3号犬)	品川区 仙台坂遺跡	江戸時代	1式	品川区立品川歴史館
20	○イヌの墓石「白」	港区 伊皿子貝塚遺跡	文政13年 (1830)	1	港区教育委員会
21	○イヌの墓石「亀」		文政13年 (1830)	1	港区教育委員会
22	○ネコの墓石		明和3年 (1766)	1	港区教育委員会
23	◇唐蘭船持渡鳥獸之図	犬之図(狆)	江戸時代	—	慶応義塾図書館
24-1	イヌの頭蓋骨	中世大友府内町跡 第88次	戦国時代	1	大分県教育庁 埋蔵文化財センター
24-2	イヌの下顎骨(左)			1	
24-3	イヌの下顎骨(右)			1	
24-4	イヌの環椎			1	
24-5	イヌの寛骨(解体痕)			1	
25	捨てられたイヌの骨	中世大友府内町跡 第17次B	戦国時代	1式	大分市教育委員会
26	イヌの骨(解体痕)	府内城・城下町跡 第22次	江戸時代	1式	大分市教育委員会

Ⅲ. 造形物からみた犬					
27	◎動物形土製品 イヌ・イノシシ	栃木市 藤岡神社遺跡	縄文時代晩期	5	栃木市教育委員会 保管：栃木県立博物館
28	*袈裟褌文銅鐸〔伝香川 県出土〕	原品：国宝	弥生時代中期	1	神戸市立博物館 原品：東京国立博物館
29	犬形・猪形埴輪	天理市 荒瀬古墳	古墳時代	2	天理市教育委員会
30	犬形・猪形埴輪	高槻市 昼神車塚古墳	古墳時代	3	高槻市教育委員会
31	犬形埴輪	唐津市 仁田埴輪窯跡	古墳時代	1	佐賀県教育委員会
32	須恵器 犬(台付装飾壺)	高槻市 今城塚古墳	古墳時代	1	高槻市教育委員会
33	*台付装飾壺 イヌ・シカ	兵庫県 西宮山古墳	古墳時代	1	たつの市立 龍野歴史文化資料館 原品：京都国立博物館
34	犬形土製品	旧二条城跡 平安京跡	戦国時代	2	京都市考古資料館
35	犬形土製品	大坂城跡	戦国時代	14	(公財) 大阪府文化財センター
36	犬形土製品	中世大友府内町跡	戦国時代	10	大分県教育庁 埋蔵文化財センター
37-1	犬形土製品	中世大友府内町跡	戦国時代	1	大分市教育委員会
37-2		大友氏館跡	戦国時代	1	
38	犬形土製品	臼杵城下町跡	戦国時代	1	臼杵市教育委員会
39	土人形「犬」	平安京跡	江戸時代中期	8	京都市考古資料館
トピック 絵画にみるかわいい犬〈パネル展示〉					
40	◇朝顔狗子図 (旧明眼院障壁画)	円山応挙		—	東京国立博物館
41	◇時雨狗子図	円山応挙		—	府中市美術館
42	◇狗子図	円山応挙		—	敦賀市立博物館
43	◇紅葉狗子図	長沢蘆雪		—	敦賀市立博物館
44	◇狗子図	長沢蘆雪		—	摘水軒記念文化振興財団
45	◇親子犬図	狩野永良		—	静岡県立美術館
46	◇光琳画譜(仔犬)	中村芳中	享和2年(1802)	—	千葉市美術館
47	◇百々世草(狗児)	神坂雪佳	明治42-43 (1909-10)	—	千葉市美術館
Ⅳ. 西洋からきた犬					
48	南蛮屏風(模写)	原品：重要文化財	原品：桃山時代	1	当館 原品：神戸市立博物館
49	洋犬(1号犬)骨格標本	品川区 仙台坂遺跡	江戸時代前期	1	品川区立品川歴史館
50	洋犬の頭骨	芝金杉通町 町屋跡遺跡	江戸時代前期	1	港区教育委員会
51	埋葬されたイヌの骨	中世大友府内町跡	戦国時代	1	大分市教育委員会
52	◇唐蘭船持渡鳥獣之図	犬之図 (阿蘭陀狩犬ほか)	江戸時代	—	慶応義塾図書館
Ⅴ. 日常に描かれた犬					
53	名所江戸百景 「高輪うしまち」	歌川広重(初代)	江戸時代	1	品川区立品川歴史館
54	江戸八景ノ内 「高輪の満帆」	勝川春好(二代)	江戸時代	1	
55	江戸名所道外尽 廿三「芝高縄」	歌川広重	江戸時代	1	
56	品川沖之鯨高輪 ヨリ見ル図	勝川春亭	江戸時代	1	
57	東京名所 八景坂	歌川重次(一昇斎)	江戸時代	1	
58	東京名所高輪 フロシア	歌川芳盛(一光斎)	江戸時代	1	

59-1	東海道中栗毛野次馬 「石薬師」		万延元年 (1860)	1	当館
59-2	◇東海道中栗毛野次馬 「平塚」			—	
59-3	◇東海道中栗毛野次馬 「袋井」			—	
60-1	○御城下絵図 「堀川口門手前」		17世紀後半 ～18世紀前半	1	当館
60-2	◇御城下絵図 「藩主行列」				
60-3	◇御城下絵図 「光明寺」				
60-4	◇御城下絵図 「米屋」				
60-5	◇御城下絵図 「雁金や」				
61	『広益国産考』 巻ノ三「七島い」		江戸時代	1	当館
62	『日本山海名産図会』 三「有馬籠細工」		江戸時代	1	当館
63	『日本山海名物図絵』 四「日本永代蔵」		江戸時代	1	当館
64	『東遊雑記』		江戸時代	1	当館
65	*『絵本世都之時』	一陽井素外編 北尾重政画	大正時代	1	港区教育委員会
VI. 信仰と犬					
66	備前焼狛犬(呬形)	木村儀三郎貞幹作	安政3年	1	柞原八幡宮
67	お札	磐田市 矢奈比賣神社 (霊犬神社)	現代	1	個人
68	腹帯	奈良市 帯解寺	現代	1	
69	『広益国産考』巻ノ六 「伏見人形」		江戸時代	1	当館
70-1	伏見人形「犬」	平安京跡	江戸時代後期	2	京都市考古資料館
70-2	伏見人形「狛犬」			5	
70-3	伏見人形「犬」土形			2対	
70-4	伏見人形「犬」復元品			2式	
71	土人形「犬」		江戸時代	2	当館
72	「犬神」石塔	住吉川採集	時期不詳	1	当館
エピソード 現代の犬とのつきあい					
①愛犬・愛猫との写真コンテスト作品の掲示（大分市保健所衛生課）					
②犬のゆるキャラ大集合【パネル紹介】					

◎重要文化財 ○指定文化財 *複製品 ◇パネル展示





「プロローグ 日本犬のルーツ」



「Ⅰ 記紀にでてくる犬 『日本書紀』『古事記伝』」



「Ⅱ 犬とのつきあい 復元縄文犬と復元弥生犬」



「Ⅱ 犬とのつきあい」



「Ⅱ 犬とのつきあい」



「Ⅲ 造形物からみた犬」



「Ⅲ 造形物からみた犬 袈裟襷文銅鐸(複製品)」



「Ⅲ 造形物からみた犬 犬形埴輪・猪形埴輪」



「Ⅲ. 造形物からみた犬 犬形埴輪・台付装飾壺(複製品)」



「Ⅲ. 造形物からみた犬 動物形土製品(重要文化財)」



「Ⅲ. 造形物からみた犬 犬形土製品」



「トピック ①絵画にみるかわいい犬」



「トピック① 絵画にみるかわいい犬」



「Ⅳ. 西洋からきた犬 南蛮屏風(模写)」



「Ⅳ. 西洋からきた犬 仙台坂遺跡」



「Ⅴ. 日常に描かれた犬 浮世絵」



「Ⅴ. 日常に描かれた犬 東海道中栗毛野次馬・御城下絵図」



「Ⅴ. 日常に描かれた犬 『広益国産考』ほか」



「Ⅴ. 日常に描かれた犬 『日本永代蔵』・『絵本世都之時』」



「トピック②生類憐みの令と犬 杵築城下町役所日記」



「Ⅵ. 信仰と犬 備前焼狛犬(吽形)ほか」



「第29回愛犬・愛猫との写真コンテスト」



「犬のゆるキャラグランプリ」



「犬のゆるキャラグランプリ」

(3) その他の展示

新収蔵資料展示

●今年度、新たな収蔵資料や出土資料を中心に、常設展の展示替えを行った。

また、学習室では、特別展「日本犬聞録ーイヌの人の歴史ー」のプレイバック展示および犬のゆるキャラグランプリの結果発表を行った。

展示品

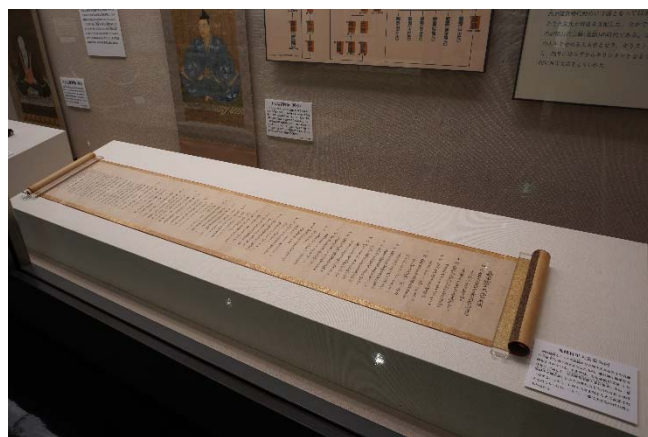
【第一展示室】猪野遺跡出土銅矛(県指定有形文化財)／羽田遺跡出土鑄造関係遺物(磬鑄型・大型鉄釜鑄型)

【第二展示室】筑紫將軍大友家系図／オルテリウス「アジア図」／オルテリウス「東インド諸島図」／ホンディウス「中国図」

【学習室】犬形土製品(中世大友府内町跡・大友氏館跡)／埋葬された犬の骨(中世大友府内町跡)／捨てられた犬の骨(中世大友府内町跡)／犬のゆるキャラグランプリ結果発表



展示風景「羽田遺跡出土鑄造関係遺物」



展示風景「筑紫將軍大友家系図」



展示風景「猪野遺跡出土銅矛」



展示風景「ホンディウス「中国図」ほか」



展示風景「猪野遺跡出土銅矛」



展示風景「特別展プレイバック展示」

大分市民図書館 「郷土史コーナー」

●「ホルトホール大分」内に置かれた大分市民図書館の郷土史コーナーにおいて展示を行った。

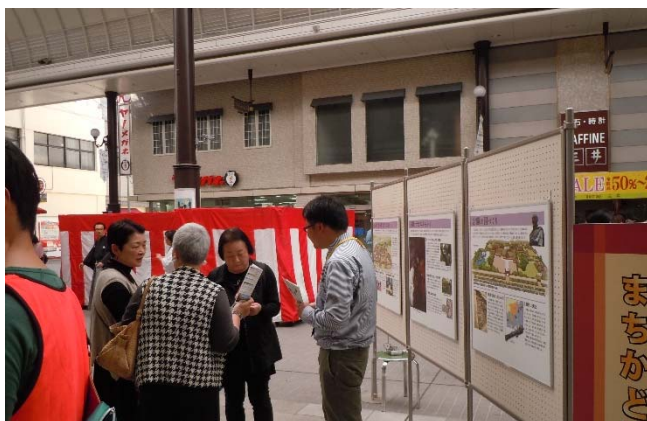
郷土史コーナーに設置された2つの展示ケースを使用し、1つには大友宗麟公を広く知ってもらうために作成した『府内から世界へ 大友宗麟』小学6年生の郷土学習資料（副読本）の内容を紹介し、あわせて中世大友府内町跡からの出土品を展示している。もう1つのケースは、大分市歴史資料館のインフォメーションとして、平成27年度に開催したテーマ展示と特別展の計4回の情報をパネル展示し、広く市民の方に郷土大分の歴史や大友氏の歴史にふれる場を提供した。



大分市民図書館「郷土史コーナー」展示風景

（4）まちかど歴史展示館

●多くの市民に郷土の歴史や文化を紹介するために、市民学芸員や地域住民と協働して、資料館を出てパネルや資料などの展示を行う「まちかど歴史展示館」を実施した。平成27年4月から平成28年3月にかけて、市内の中学校を中心に、ガレリア竹町、大分銀行ドーム、大分銀行宗麟館、南大分公民館など、18会場で順次展示を行った。期間中、14,485人の利用があった。



ガレリア竹町での展示風景



大分銀行ドームでの展示風景



判田中学校での展示風景



明野中学校での解説風景



大東中学校での展示解説風景

資 料 調 査

平成 27・28・29 年度特別展関係資料調査

平成 27 年度に開催予定の「日本犬聞録－イヌと人の歴史－」、平成 28 年度に開催予定の「ほとけの王国－大分の仏像－」、平成 29 年度に開催予定の「よみがえる大友館(仮)」の各資料調査を以下のとおり実施した。

1. 佐賀市教育委員会文化振興課文化財係

調査日 平成 27 年 9 月 3 日 (木)

調査員 中西武尚

■平成 27 年度特別展の実施にあたり、東名遺跡出土のイヌの頭蓋骨やその他の骨・糞石(縄文時代早期)などの資料調査を行ない、図録等広報用の写真撮影もあわせて行った。当該資料は、頭蓋骨が完全に残っているものの中では最古のものであり、それも状態の良いものが、3 個体も見つかり、縄文犬を考える上で欠くことのできない資料である。頭蓋骨の 1 つには、生前に歯が折れ、その後自然治癒したと考えられる痕も確認されており、縄文犬を長きに渡って大切に飼っていた証明となっている。また、イヌの下顎骨とオオカミの下顎骨では、その大きさが大きく異なり、日本においては、オオカミが家畜化されて、イヌになったのではないという証明にもなっており、日本犬はイヌとして人と共に大陸から移動してきたと考えられている。また、遺跡から出土した糞石のおよそ半部は、犬ものと推定され、犬が集落の中で自由に生活していた情景が読み取れる資料である。



2. 佐賀県教育庁文化財課

佐賀県文化財調査研究資料室

調査日 平成 27 年 9 月 3 日 (木)

調査員 中西武尚

■仁田埴輪窯跡出土の犬形埴輪について、資料調査を行ない、図録等広報用の写真撮影もあわせて行った。仁田埴輪窯跡は、佐賀県と福岡県の県境、背振山系の南向きの丘陵斜面で発見された古墳時代中期の埴輪を焼いた窯跡。埴輪を焼いた焼成部から埴輪の破片が多量に出土し、

その中から今回調査した上半身と足だけの犬形埴輪が出土。上半身部分は高さ 25.5cm で、前足がついた状態で復元されているが、顔の部分が重く自立しないため、展示するには安定させるための補助具が必要である。後足部分は自立できるが、展示する際にはやはり補助具が必要である。前足と後足で大きさに若干の違いがあるが、同一個体と考えられている。立耳で、鼻先から頭頂部へのストップが表現されている。くり抜かれた目と鼻の位置がアンバランスで、ややゆがみのある顔が、逆にかわいらしく感じられる。足にも指が 4 本表現されている。全体の形と大きさがわかる初期の犬形埴輪として貴重な資料であり、九州での出土もめずらしく、今回の展覧会には欠くことのできない資料である。



3. 公益財団法人 大阪府文化財センター 中部調査事務所

調査日 平成 27 年 9 月 7 日 (月)

調査員 中西武尚

■平成 27 年度特別展の実施にあたり、亀井遺跡出土のイヌの骨とイヌの犬歯で作った牙玉、大坂城跡出土の犬形土製品の資料調査を行ない、図録等広報用の写真撮影もあわせて行った。亀井遺跡は、弥生時代の環濠集落跡で、遺跡からは 14 匹ものイヌの骨が発見されている。この内 2 匹(1 号犬と 2 号犬)は、溝の中から全身骨が残った状態で出土した。2 号犬の上に 1 号犬が交差し、折り重なるような状態でみつかり、2 匹同時に溝の中に投げ込まれたものと考えられている資料である。1 号犬は、陰茎骨をもつことから雄であり、2 号犬は雌と考えられている。1 号犬は、ストップが縄文犬より明瞭にみられ、最大頭蓋長は 175.0mm で、中型犬に属し、体高は 47cm に推定される。上顎の右前臼歯に生前喪失歯が確認でき、右肩甲骨には、動物による咬痕が確認できる。さらに、右足は骨折しており、

腓骨が胚骨に付着し、肥大化していた。これらは、縄文犬にもみられるもので、狩猟の際に受けた損傷と考えられる。2号犬もストップが縄文犬より明瞭にみられる。最大頭蓋長は164.2mmで、中小型犬に推定される。体高は42cmに推定され、1号犬よりも小さく、縄文犬、弥生犬ともに雌犬の方が小さくなる。1号犬、2号犬以外の個体は、すべてバラバラの状態で出土し、解体痕をもつものあることから、食用として利用されたと考えられる。その中であって、全身骨が出土した1号犬、2号犬は、狩猟犬として大切に飼われていた可能性のある資料である。また、1号犬は大阪府立弥生文化博物館所蔵の復原弥生犬「海渡」の元になった資料であり、今回の展覧会には、欠くことのできない資料である。しかしながら、1・2号犬とも全身骨の貸出は困難とのことで、頭蓋骨のみの出品の了承を得た。牙玉は、イヌの犬歯で作られたアクセサリーである。表面片側に縦に大きく亀裂がはいっているが、状態はよく出品の了承を得た。次に犬形土製品は、戦国時代から江戸時代初めに大坂城跡を中心に、全国各地の城館跡や都市遺跡で出土しているもので、中世大友城下町跡からも出土しており関連性が考えられている資料である。通常は1遺跡からの出土量は多くても数点で、一定量出土している遺跡は、大坂城跡、中世大友城下町跡、堺環濠都市遺跡に限られている点で重要である。大坂城跡では1調査地点で100点以上の製品が出土し、次に多いのが中世大友城下町跡で23点、その次が堺環濠都市遺跡の14点である。この他に10点を越える遺跡はない。また、犬形土製品は、通常5cm前後の規格品のようなものをさすことが多いが、大坂城跡では、体長8～9cmの大型のもの、体長5cm前後の中型のもの（この中型のものが各地で出土）、体長3cm前後の小型のもの、さらに2cm強の極小型の4つに分けることができる。小型・極小型のものは、大坂城跡以外での出土はまだ知られていないが、中世大友城下町跡では、大型のものも出土しており、特異な存在といえる。大坂城跡から100点以上出土した犬形土製品の内、状態がよい大型2点、中型6点、小型3点、極小型3点について、事前に借用希望資料を選定し、出品の了承を得た。



4. 神戸市立博物館

調査日 平成27年9月8日（火）

調査員 中西武尚

■伝香川県出土の袈裟襷文銅鐸（複製品）について、資料調査を行なった。この原品は、国宝で、東京国立博物館が所蔵している。銅鐸絵画の傑作とも呼ばれる資料であり、同類の銅鐸（国宝）を所蔵する神戸市立博物館が比較展示資料として本複製品を製作したものである。銅鐸はマツリのベルとしての「聞く銅鐸」にはじまり、大型化してベルの機能を失くした「見る銅鐸」に変わる。本品は扁平紐式と分類される中段階のもので、表裏に斜格子文の帯で縦・横に区画し、6区に分けられている。僧侶の袈裟襷の模様に似ていることから、袈裟襷文銅鐸の名がつけられている。絵画は右上段から下にクモとカマキリ、魚をくわえるサギ、イノシシを狩る人とイヌ、左上段からトンボ、魚をくわえるスッポン、スッポンとトカゲ、反対側右上段からトンボ、シカを射る人、高床切妻の建物、左上段からイモリ、工字状の道具を持つ人、竪杵で臼をつくる人が描かれる。男性の頭は○、女性は△で描き分けられている。弥生時代の農耕社会や生活環境、動物観を知ることができるとともに、弥生時代においても、イヌが狩猟犬として利用されていたことを物語る重要な資料であり、今回の展覧会には欠くことのできない資料である。

5. 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

調査日 平成27年9月8日（火）

調査員 中西武尚

■京都市内出土の犬形土製品と伏見人形の「犬」について、資料調査を行ない、図録等広報用の写真撮影もあわせて行った。京都市内での戦国時代から江戸時代の初めの犬形土製品の出土数

は少なく、今回調査をした旧二条城跡と平安京左二条四坊三丁出土のもの2点と、あと数点くらいとのことであった。体長5cm弱で、手づくねで作られた犬形土製品は、垂れた耳とその下に目をあけ、尻尾は背中に張り付く。やや首をかしげた愛らしい姿のものであり、大坂城跡で出土している中型のものとはほぼ同一のものである。平安京出土のものは、右前足が欠損しているが、補強して展示してよいとの許可を得た。伏見人形の「犬」については、伏見稲荷大社北側の調査で出土した江戸時代後期の犬の土型とそれを元にして復原された資料を中心に調査を行なった。伏見人形は、京都・伏見稲荷の門前から東福寺への伏見街道にかけて、伏見詣のお土産として売られていたものである。さまざまな型があり最盛期には千を越える原型があったといい、開運厄除の狐や火伏せの布袋、子どもの「瘡」を食べる撫牛、亡くなった子どものために供える友引人形など様々であった。犬の人形には安産のお守りや子どもの鼻づまりを治すまじないの意味があったと言われている。今回調査した犬の土型とその復原品は、中型のものと小型のもの2セットがあり、状態も良く、早く出品の了承が得られた。また、その他の調査地で出土した犬の土製品（伏見人形）についても準備していただいた。京都市内で出土する土で作られた人形は、全て伏見人形として位置付けられており、本展覧会が犬に関わる資料を集めていることからご配慮いただいた。その資料の中には、江戸時代中期のものも含まれており、それらのほとんどは手づくねで作られており、本来の型作りされた伏見人形とは違うものもあった。しかもそれらの出土状況は、天皇の仮御所や貴族の邸宅跡などといった特定の場所に限定されているとのことご教示を受けた。こうした出土状況は、戦国時代から江戸時代の初めに出土する先の犬形土製品の位置付けを示唆するものでもあり、戦国時代から江戸時代を通じての犬の土製品を考える上で重要な資料であると考えられる。



6. たつの市立龍野歴史文化資料館

調査日 平成27年9月9日（水）

調査員 中西武尚

■西宮山古墳出土から出土したイヌによるシカ狩りのようすを装飾した須恵器の台付装飾壺（複製品）について、資料調査を行ない、図録等広報用の写真撮影もあわせて行った。西宮山古墳は全長35m、古墳時代後期（6世紀前半）の前方後円墳で、後円部の横穴石室からさまざまな副葬品とともにこの須恵器の台付装飾壺が出土した。この壺の肩部4カ所に、人や動物の小像による装飾がある。1つは、うずくまる首の長いシカに、耳をピンと立て吠えかかる2匹のイヌと人物で、狩猟の場面を表現しているもので、この隣には、棒で荷物を運ぶ2人の人物と荷物を担ぐ1人の人物が配置されている。狩猟で捕まえたシカを運ぶところを表現したものと言われる。さらにこの装飾の隣にも、イヌがおり、他が欠けてしまっているが、狩猟の場面があったと考えられている。その隣は、2人の人物がとつくみあいをし、それを横で2人の人物がみている。おそらく相撲をとっている姿と考えられており、残りの2人は、行事と見物人とみられている。このような小像をつけた須恵器の装飾壺は、岡山県や兵庫県を中心に西日本で多く見つかっているものである。本展覧会に展示予定の奈良県天理市の荒蒔古墳や、大阪府高槻市の昼神車塚古墳出土の埴輪は、犬と猪がセットで配置され、狩猟の風景を表現している。こうした埴輪や本資料は、古墳時代の葬送儀礼の中で、狩猟の風景を表現することにある種の特別な意味があったことを示す資料と言える。なお、原品は京都国立博物館が所蔵し、常設展示しているため借用ができず、たつの市立龍野歴史文化資料館が所蔵する本複製品にて代替を検討した次第である。



7. 岡山県立博物館

調査日 平成 28 年 3 月 16 日 (水)

調査員 中西武尚

■平成 29 年度特別展「よみがえる大友館（仮）」の実施にあたり、岡山県瀬戸内市牛窓所在の本蓮寺所蔵の朝鮮通信使施入青磁花瓶（青磁福寿字円環付双耳瓶）の資料調査を行なった。当資料は現在、岡山県立博物館に寄託されており、会期中の特別陳列 岡山県指定重要文化財指定記念「牛窓本蓮寺と朝鮮通信使」に展示されていた。本蓮寺は江戸時代に朝鮮通信使が寄港し宿とした寺社で、その境内は朝鮮通信使遺跡として国史跡に指定されている。同寺には朝鮮通信使関係資料が多く伝わっており、その中に青磁の花瓶 2 対と青磁の硯屏がある。今回の調査資料は、その青磁花瓶の内の 1 対で、柞原八幡宮所蔵の大友氏から寄進されたと考えられている青磁円環付小花瓶 1 対と同形の資料である。調査は同資料の位置付けを検討する目的で行なった。尚、本蓮寺は本堂や中門なども重要文化財に指定されている古刹である。青磁福寿字円環付双耳瓶は、一見すると口縁部が開き、頸部が細く胴部がふくよかに張った青磁瓶であるが、表裏に「福」と「寿」の文字が装飾された扁平な器形である。口縁部は花卉状を呈し、頸部は蕉葉文と雷文が施されている。さらに頸部には獣形の耳が付きそこに円環が付く（円環はどちらも片側が欠損している）。この瓶の最大の特徴は、胴部中央の窓にそれぞれ「福」「寿」の文字やその周囲の牡丹唐草文が透かし彫り装飾されていることである。「福」の字側の透かし彫り装飾の下には波文が表現され、「寿」の字側では蓮弁文が表現されており、この部分だけ表裏で異なる文様構成をとっている。高台は高く、雷文が施され、畳付部分のみ露胎となっている。本体自体は、円筒形の内壺をもつ二重構造となっており、外壁部分が透かし彫りになっている。この 1 対となる青磁瓶は、どちらも全く同じ文様構成であり、法量もほぼ同じである。透かし彫り部分については、同型によるものと考えられるが、ロクロ成形後に型押し陽刻したものか、型押し成形で貼り合わせたものかは、現状判断できない。柞原八幡宮所蔵の青磁円環付小花瓶と比較すると、文様構成は全く同じであり、法量もほぼ同じである。同型により作成されたものと考えられる。柞原八幡宮所蔵のものの制作年代は、15 世紀と考えられており、本蓮寺所蔵のものも同様と言える。しかしながら、それぞ

れ来歴は異なっている。柞原八幡宮所蔵のものでは、永禄 4 年（1561）の調進神宝目録の記録にある「濱殿分の花瓶 36 個」の内の 2 つと考えられ、大友宗麟から寄進されたものとみられる。瓶自体の制作年代は 15 世紀であり、各地の戦国大名が唐物を嗜好した価値観の中で、16 世紀に骨董品として収集したものが、柞原八幡宮に寄進されたと考えられる。本蓮寺所蔵のものは、1624～1655 年の間に朝鮮通信使が 4 度訪れた際に寄進したものとされており、この時期においても骨董品としての唐物嗜好の価値観が存在していた可能性を示唆している。一方で本蓮寺のある牛窓港に 1420 年室町時代の朝鮮通信使が停泊、あるいは 1467 年に牛窓の代官が朝鮮に使いを遣わせたという記録が『海東諸国記』に記載されているらしくそれとの関連も今後事実確認が必要である。いずれにしても、当該資料は骨董的価値を有した贈答品として位置付けられていた可能性が高く、座敷飾りなどに使われた美術品としての側面を持っていたものと考えられる。



本蓮寺所蔵の朝鮮通信使施入青磁花瓶



柞原八幡宮所蔵の青磁円環付小花瓶 1 対

8. 高槻市教育委員会文化財課 高槻市立しろあと歴史館

調査日 平成 28 年 3 月 17 日 (木)

調査員 中西武尚

■平成 29 年度特別展「よみがえる大友館(仮)」の実施にあたり、鶴原文書の資料調査を行なった。当該資料は高槻市在住の個人の方の所蔵であり、調査は上記館長の仲介により、所蔵者のご自宅にて行なった。調査にあたっても上記の 2 人の補助を得ながら行うことができた。鶴原文書は、上記個人宅に伝来した中・近世の古文書群である。鶴原家は豊後の水軍として活躍した田口氏の流れを汲んでおり、天文 19 年(1550)大友義鑑を襲った「二階崩れの変」に参加したため、変後に「鶴原」と名を改めて大友氏一族として存続したようだ。大友氏改易後は、伊予板嶋(愛媛県宇和島)で藤堂高虎に仕官し、江戸時代は津藩士として、伊賀国に居住している。鶴原文書には、南北朝時代の足利尊氏下文や大友親治・宗麟・義統らの書状の他、一族の家系図や藤堂家に提出した由緒書などが含まれている。今回の調査対象資料は、その中の 17 件 23 点の古文書と、同家に受け継がれてきた桃山時代の太刀・脇差、花杏葉紋入黒羅紗腹当、黒漆菱綴桶側胴具足の計 21 件である。今回調査した古文書はほとんどが軸装されており、大部分は黄布により巻かれている。資料には、しろあと歴史館による過去の資料調査時に整理された通し番号と名称のタグが付けられている。資料が複数貼り付けられ、軸装されているものも 4 点あった。本紙と裏打紙の境目に折れた状態のものがあつたが、本紙自体が剥がれているものもあつたが、総じて展示には耐え得るものであつた。太刀・脇差については、錆びが全体にみられたが、展示には耐え得るものであり、腹当・具足についても、取り扱いに十分注意は必要であるが、展示に耐え得るものであつた。いずれの資料も展示に際しての注意点などを確認し、展覧会への出品の内諾を得た。



9. 杵築神社(奈良県平群町) 平群町教育委員会

調査日 平成 28 年 3 月 17 日 (木)

調査員 中西武尚

■平成 28 年度特別展「ほとけの王国—大分の仏像」の実施にあたり、木造深沙大将立像(奈良県指定有形文化財)の資料調査を行なった。調査にあたっては総代様ほか、15 年前に 1 度だけ博物館に出展された際に、立会って細かく記録をとられた村社仁史氏にも搬出方法などについて助言をいただいた。深沙は沙河にちなんだもので唐の玄奘(三蔵法師)が仏典を求めてインドへ旅行した途中、流沙(砂漠)で現れてその苦難を救ったという護法神である。像形は、奇怪な相貌をした半裸の鬼形の立像で、首に髑髏の瓔珞をかけ、腹部に小児の顔を出し、膝頭に象の頭をあらわした袴をつけている。深沙大将は多聞天の化身ともいうが、平安時代に常暁(入唐八僧の一人)が、中国で息災の神として信仰されていたのをわが国に請来したと伝える。独尊像は少なく、『大般若経』の守護神として玄奘とともに十六善神図中に描かれることが多い。持物は片手に蛇や戟などを取ることもあるが、十六善神図中では両手で鉢をもつのが一般的である。この深沙大将が仏像として彫られる類例は少なく、10 件に満たない。磨崖仏として彫られているものは、大分市の高瀬石仏だけあり、その他の作例を知る上でも本展覧会には欠かせない資料であり、展示の目玉の 1 つでもある。本資料は、像高 197cm を測り、南北朝～室町時代前期に造られた寄木造りの深沙大将立像である。髪は怒髪で憤怒の相を表し、口を開いて歯と舌を覗かせる。上半身裸体で肩から天衣をかける。右手は屈臂して、掌を手前に向け、二指を立てる。左腕に白蛇が巻きつく。腹に童子面を持っていた痕跡がある。腰から衣を纏い、象頭をもつ膝丈の袴を穿く。一時期竜神として祀られていたため波の彫刻がつく台座(近世の補作)に安置されていたが、解体修理の際に取り除かれた。髑髏の瓔珞はなく、右手の二指を立てるというめずらしい構図となる。細部に注意する部分は多いが、しっかりとした修復がなされており、展示にも耐え得る状態であることから快く展覧会への出品の内諾を得た。資料の搬出入については、天衣や白蛇などの取外し可能なものは取外して良いとのことであつた。さらに、以前に搬出された際の作業人数や手順などの話とともに、参考資料をいただいた。尚、駐車場はかな

り広いが、入口が3 m弱と狭くなっており、美術専用車の乗り入れには注意が必要である。また、杵築神社の常什物として、大般若経転読時に掛けられる「十六善神画像」の存在についてもお教示いただいた。本図は2巻1組の紙本着色の掛け軸で、総長約182cm、幅約90cmの大きさのものである。通常、「十六善神画像」は、1軸に釈迦三尊と法涌菩薩、常啼菩薩と十六善神、玄奘、深沙大將などを描くが、本図には、1対で十六善神等を描いており、中央の主尊部分が描かれておらず、2軸の間に祀られる釈迦三尊像の存在が推測されている。あるいは、深沙大將立像の存在から十六善神の部分のみが意図的に用いられた可能性も考えられている。この資料については、状態が非常に悪く、掛けて展示できるものではない。貸出は可能ではあるが、45度以下の角度での展示が条件であった。「十六善神画像」は他館から別途借用予定であるが、当該資料についても検討の余地があると思われる。



10. 洲本市立淡路文化史料館

調査日 平成28年3月18日(金)

調査員 中西武尚

■平成29年度特別展「よみがえる大友館(仮)」の実施にあたり、新見貫次氏収集文書 斉藤家 斎藤家祖先の記録(木碎之注文)の資料調査を行った。当資料は洲本市立淡路文化史料館に寄託されており、資料調査については所蔵者の承諾書は必要でないとのことであった。新見貫次氏収集文書の中には、斉藤家旧蔵文書と呼ばれる資料が9点あり、中世にその成立が遡る大工関係資料として稀有な価値を有するものであり、その中の1つが「斎藤家祖先の記録」である。この資料は題箋がないため、最初の項目名を冠して通称「木碎之注文」と呼称されている。木碎之注文は、洲本御大工 斎藤家に伝わった初期木割書と呼ばれる大工の技術書であり、成立年代は、永禄5年(1562)あるいは天正2年(1574)とみられている。ここに記された建物のほとんどが豊後府内町に集中しており、その大部分が大友氏に関係した作事である。この資料は豊後で成立したものと考えられ、筆録者も豊後の住人で大友氏に仕えていた大工であったと推測されている。豊後在住の御大工がどのような経緯で洲本御大工の地位を得たかはわかっていない。資料自体は、状態が悪く台紙を挟み込んだ袋綴で復元されている。特に最初の方と終わりの方は、劣化の状況がひどく取り扱いには十分な注意が必要である。中世の大工関係資料として稀有な価値があるだけでなく、大友氏館の作事に関わる記載も多数あることから、本展覧会には欠くことのできない資料である。事前にその趣旨を伝えていたところ、所蔵者の方も展覧会への出品については好意的であり内諾いただいているとのことであった。



資料収集

資料収集委員会

1. 会議

開催日 平成 28 年 1 月 26 日 (火)

場 所 歴史資料館会議室

議 題 ①平成 27 年度購入予定資料の説明

②購入予定資料の熟覧

③購入予定資料の審議

2. 委員会名簿

氏 名	役 職	専 門
豊田 寛三	別府大学長	日本近世史
段上 達雄	別府大学文学部教授	日本民俗学
菊竹 淳一	九州大学名誉教授	日本美術史
鳥井裕美子	大分大学教育福祉科学部教授	日欧交渉史
下村 智	別府大学文学部教授	日本考古学

寄 贈 資 料

(1) 八雲琴 1 点

古庄哲司 氏

(2) 中島製粉機製作所をご視察される昭和天皇の写真 1 枚

笠木善伴 氏

(3) 謄写版 1 点／五つ玉そろばん 3 点

首藤重雄 氏

(4) 奉公袋 1 点／竹の杖 1 点

岩男由美子 氏

(5) 軍用手票(軍票) 1 点

小野征男 氏

(6) 戦争関係アルバム 1 冊

野中平八郎 氏

(7) 南京入城記念寄書掛軸 1 点／支那事变記念アルバム 1 冊

猪原元師 氏

(8) 飯盒(蓋無し) 1 点／弁当箱 1 点／一号ガス救急箱 1 点

阿南能男 氏

(9) 棹秤(みかん用) 2 点／棹秤(魚・野菜用) 2 点

後藤徳代 氏

(10) 陸軍外套 1 点

高司工 氏

(12) 父の手記(終戦一学徒動員) 1 部

岡村聡美 氏

(13) 足踏脱穀機 1 点／電気式着物用アイロン 1 点／漏斗 1 点／炭炬燵 1 点

今井福子 氏

(14) 軍用手帳 1 点／賜金国庫債券 1 点／罹災証明書 1 点／階級章・記章・メダル 7 点

高野セキ 氏

(15) 『栄光の十中隊』(昭和 57 年 12 月発行) 1 冊／支那事变従軍記章之証 1 点／支那事变功七級金鷄勲章・勲七等青色桐葉章・金千参百円授与之証 1 点／勲記 1 点

桑原セツ子 氏

(16) 支那事变画報 46 点

河野光由 氏

(17) 庚申講掛軸 1 点

牧野久司 氏

(18) 日本写真帖 1 冊

高司工 氏

(19) 露井路関係資料 多数

横山照 氏

(20) 柱時計 1 点

岩尾健吾 氏

(21) 天津駐屯記念写真帳 1 冊／『昭和の戦歴 軍魂』 1 冊／講談社の絵本『感状に輝く勇士奮戦美談』 1 冊／『感状輯訓』 1 冊／『勇士の遺訓』(第一輯) 1 冊／大分合同新聞 郷土部隊奮戦史 記事切り抜き 42 枚／久保ちく宛、秦臯月氏の年賀状 1 枚／大分・鶴崎 2 万 5000 分の 1 地形図 1 枚

久保雅紀 氏

(22) 氏子札 2 点／小学校教員免状 1 点／登明書 1 点／尋常高等小学校訓導 1 点／丹生尋常小学校建築への寄付金礼状 1 点／日本赤十字社大分支部嘱託任命状 1 点／大分県立大分高等学校卒業証書 1 点／蒔絵の文箱 1 点／記念の盃 2 点／仏事用の椀 10 点／国際生命保険株式代理店の看板 1 点／蔵の鍵 1 点／軍服 3 点／佐賀関尋常高等小学校卒業写真帖 1 冊／士官学校教科書 2 束

児玉哲夫 氏

- (23) 大友氏時代府内市街図(豊後府内大友古図) 1点／大友氏時代府内市街図(元府内之図) 1点／大給氏時代府内市街図 1点

高山龍五郎氏

- (24) 大分文化会館記念ご芳名録 9冊／サイン 6点

大分文化会館

- (25) シュロ蓑 1点

山田寿美子氏



炭炬燵 今井福子氏寄贈



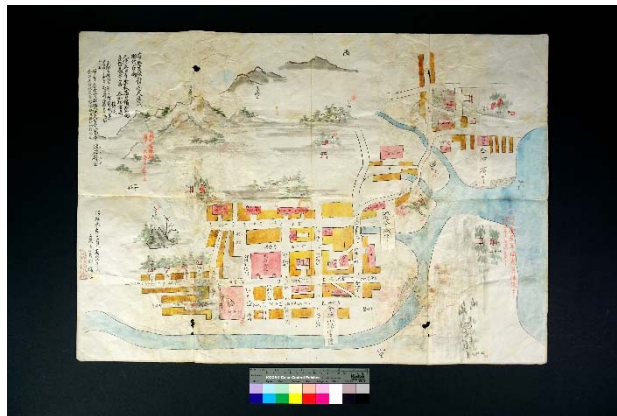
謄写版 首藤重雄氏寄贈



大友氏時代府内市街図 高山龍五郎氏寄贈



棹秤 後藤徳代氏寄贈



大友氏時代府内市街図 高山龍五郎氏寄贈



陸軍外套 高司工氏寄贈



大給氏時代府内市街図 高山龍五郎氏寄贈

購入資料

(1) 華南三彩鳥形水注 1点

高さ 14.6×長さ 20.7×幅 10.7cm

16世紀後半、日本へ盛んに輸出されていた華南三彩陶器の一器種で、水面に浮かぶ水鳥をかたどった型押し成形の水注（水さし）。背中部分に注入部があり、くちばしが注ぎ口となる。頸部にはもう1羽の顔が確認でき、反対側から見ると寄り添い首を巻き付けるような状態で表現されている。雌が雄に寄り添う仲むつましい姿、あるいは、親鳥が雛を翼で庇護している姿といわれている。いずれにせよ2羽の鳥が表現されている。羽根の模様から鴨を表現したものと考えられており、鴨形水注と呼称されているものである。釉薬の状態は良くないが、全体に白の化粧がけをした後、緑・黄・褐色の3色により各部位を塗り分けていたことが確認できる。器壁が薄く、頸部の一部に欠損が認められるものの完形品として、全体の形を知ることのできる大変貴重な資料である。この鴨形水注の完形品は、出土品では阿蘇大宮司の館とされる「浜の館」から出土したもの（重要文化財）が知られており、国内の伝世品としては、沖縄県今帰仁村の中城家で保管されているものがある。国外からの収集品としては、本田コレクションや東京国立博物館に各1点、国立歴史民俗博物館に2点所蔵されている程度であり、その数は非常に少ない。本資料もカンボジアからの収集品である。鴨形水注は羽根の模様構成からいくつかのタイプに分類でき、本資料は国立歴史民俗博物館所蔵の緑釉単彩の鴨形水注と同じ型を使って作られた可能性があり非常に興味深い資料でもある。大友氏館跡や中世大友府内町跡において、この鴨形水注の破片が数多く出土している状況を踏まえると、その全体を知る資料としての意義は大きく、豊後府内の南蛮文化を考える上でも欠くことのできない資料である。

(2) 華南三彩刻花文水注 1点

高さ 13.2×長さ 16.2cm

蓋：口径 2.0×最大径 3.6×高さ 3.1cm

ロクロ成形された華南三彩の刻花文水注。卵形の体部に鶴首状の注ぎ口と、その反対側に耳形の取手が付く。口縁部は上面に小さく開き、蓋受け部がある。胴部中央に線彫りによる立花

が2側面に刻まれており、その下位に太い沈線が一条廻っている。底部にも同様の太い沈線が一条廻り、口縁部には、線彫りによる一条の細い沈線と二重線の蓮弁文が7つ廻る。素地は黄白色の軟質の胎土で、全体に白の化粧がけをした後、緑釉を基調とし、文様部分は黄色により文様を塗り分けている。さらに、底部から胴部下位の沈線の間には、線彫りによる蓮弁文はみられないものの、黄釉により蓮弁風に施釉されている。口縁部には細かな細工を施した宝珠形の銀製の蓋が付随しており、後付の可能性が高いが、製作年代に近い時期に作られたものの可能性も考えられる。

この種の水注は、1の鳥形水注と同じく「浜の館」から出土したもの（重要文化財）が知られている。同資料は2個体出土しており、一対で使用されたものと考えられている。どちらも緑釉の単彩で、内一つは刻花文などの文様が描かれていないものである。国外の採集品では、国立歴史民俗博物館所蔵のもの3点が知られている。本資料はカンボジアからの収集品であるが、全体に釉の剥離もなく、非常に状態の良いものである。

大友氏館跡や中世大友府内町跡から同水注の破片が多く出土しており、その全体を知る資料として大変貴重である。

(3) 御當家御軍役書付 1冊

縦 14.3×横 22.2cm

豊臣秀吉の命を受け、筑後柳川城主の立花宗茂が出軍した文禄の役における軍役の内容を書きとめたもの。このときに宗茂ならびに実弟の高橋主膳正（統増）に従った150石以上の家臣118人の名前、総人数（2350人）、また必要とされた昇・鉄砲・弓・槍の数などが記されている。表紙に「文禄五年十月十六日」の日付が記されており、このことから、同年（1596）9月に秀吉によって朝鮮半島への再派兵が決定された慶長の役に関連してまとめられた内容のものと思われる。

宗茂は、大友氏の重臣高橋紹運の長子で、のちに筑前立花城督の戸次道雪の養子となって戦国期大友氏の筑前国経営を担ったが、天正15年（1587）の豊臣吉の九州平定後、筑後国の山門・三潴・下妻・三池の4郡（天正19年の御前

帳高9万877石余）を与えられ、大友家から独立し大名に取り立てられた。

本史料は、現在「立花家文書」に収められている「高麗御陣御備人数覚」、「文禄五年朝鮮御陣騎馬鉄炮付」、「軍役之次第」の三史料を合わせた内容となっており、一部、家臣の名前や人数の記載などに相違がみられるが、秀吉の朝鮮侵攻における大友氏一族立花家に課せられた軍役の状況や文禄年間（1592～1596年）頃の家臣団の構成などが分かる貴重な内容の書物である。

（4）『貞丈雑記』

32冊

縦26.3×横18.2cm

室町幕府の政所執事で幕府の礼儀・作法を司った伊勢氏の子孫、伊勢貞丈（1717－1784）が自らの子孫のために書いた武家に関する故実研究書。貞丈の死後、天保14年（1843）に岡田光大らによって校訂、刊行された。本書には、禮法・祝儀・人品・人物・人名・小袖・烏帽子・役名・官位・装束・飲食・膳部・酒盃・輿・調度・書札・進物・弓矢・武具・刀剣・馬・馬具・家作・座敷飾・紙類・皮類・鳥目・鷹・物数・言語・神仏・諸詰・凶事・雑事・書籍の35分野にわたって、室町幕府における武家規式や作法などが図入りで解説されている。

土器（かわらけ）に関する記述では、大きさの違いで、塩皿、酒盃、肴の盛り皿など、その用途に異なりがあるとされており、これによると、国指定史跡「大友館氏跡」から大量に出土する大小さまざまな土器についても同様に区別され用いられたと考えられる。

また、大友氏22代義統が大友家で行われた年中行事の様子をまとめた「当家年中作法日記」にみえる「そくびの盃」なるものも、茶の湯に用いる「灰ほうろく」ほどの大きさのものとあり、その具体的なすがたをうかがわせる記述もなされている。

さらに足利將軍邸の建物の造作や座敷飾りについても詳細な記述がみられるなど、本書は、室町幕府体制下の立花館の造りや立花氏の規式・作法などの有様を知る上において、貴重な内容を記した本である。

（1）華南三彩鳥形水注

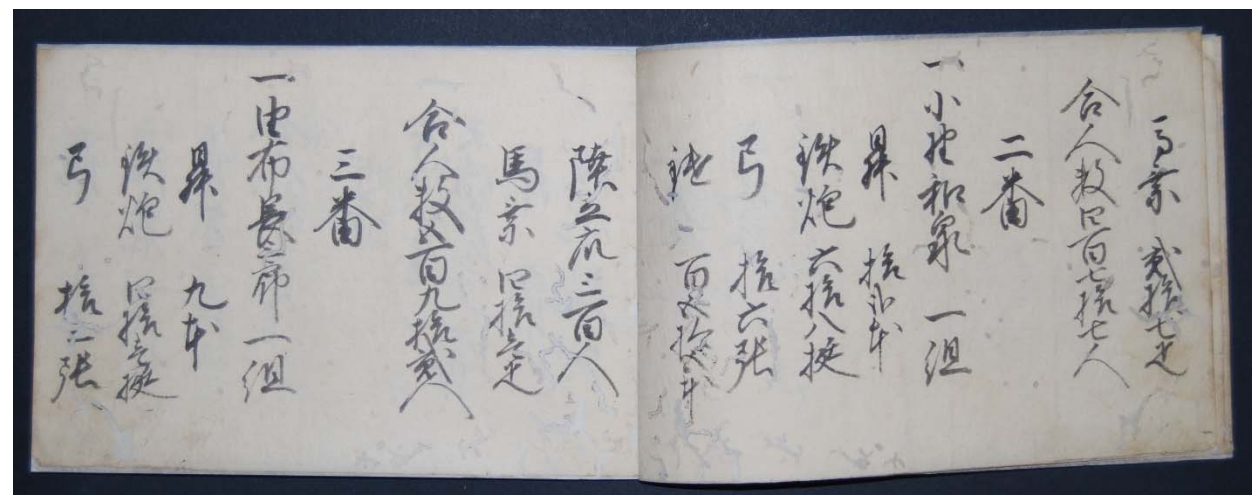
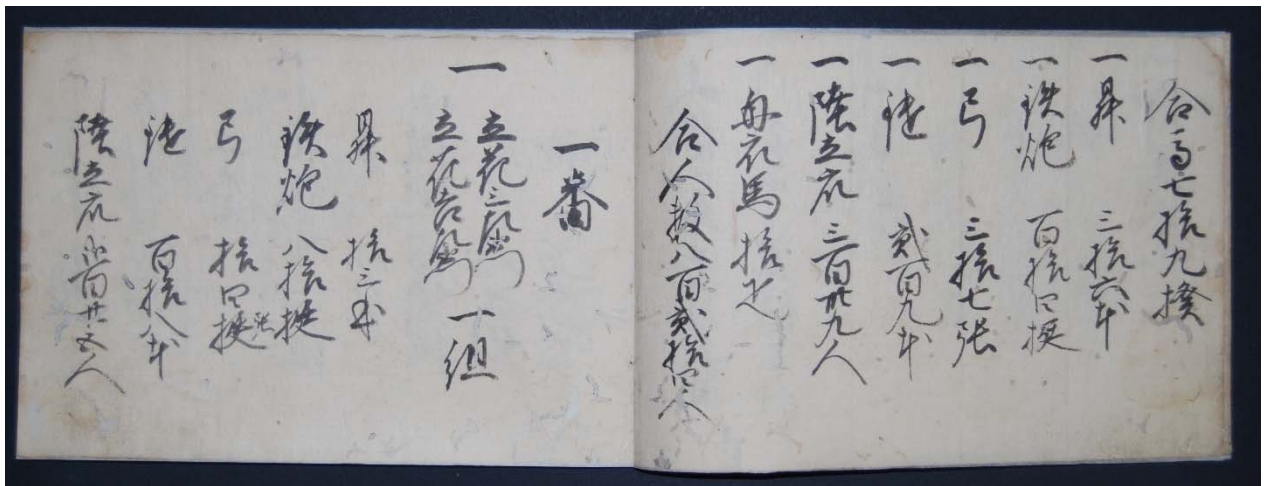
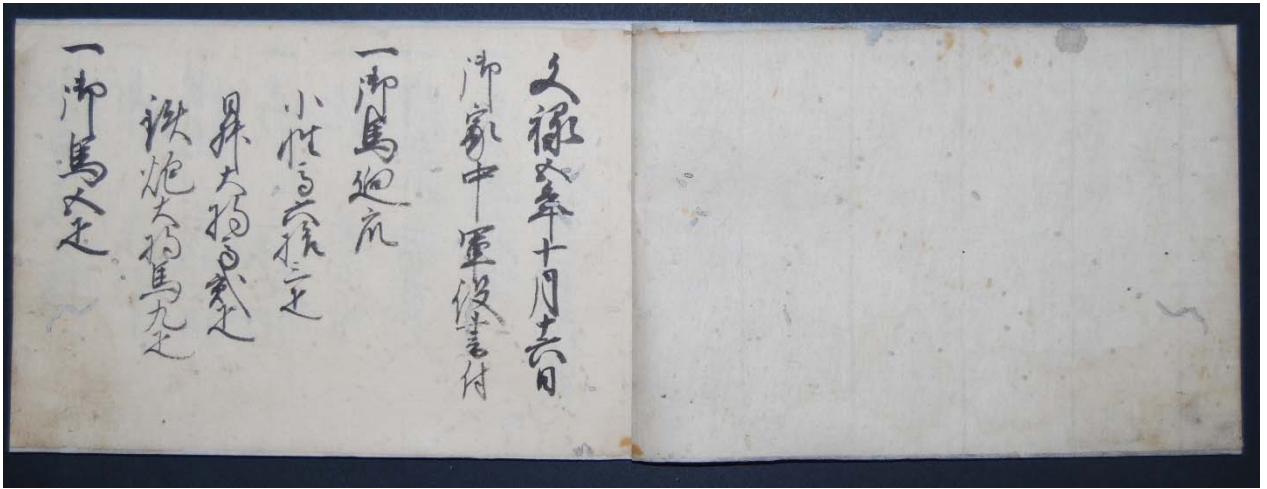
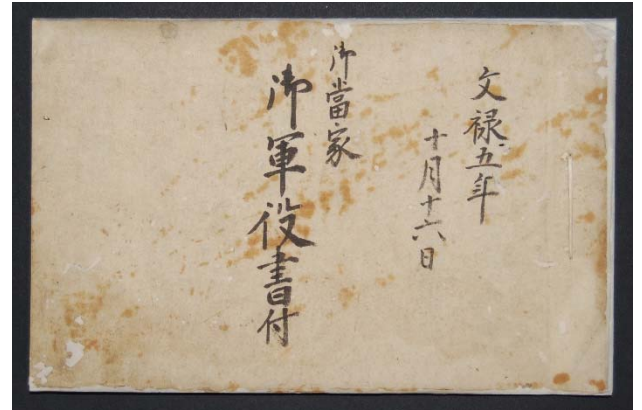




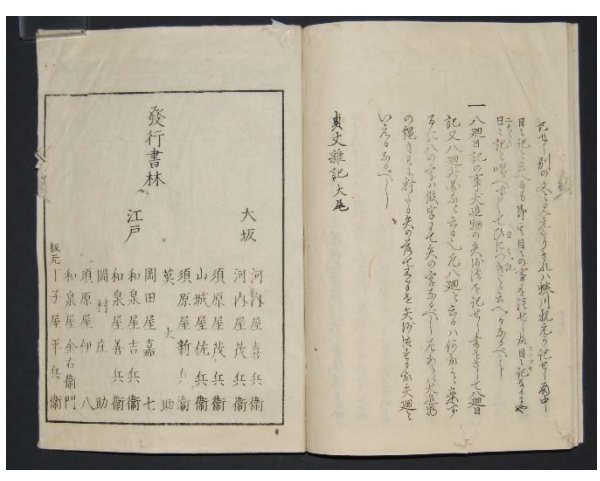
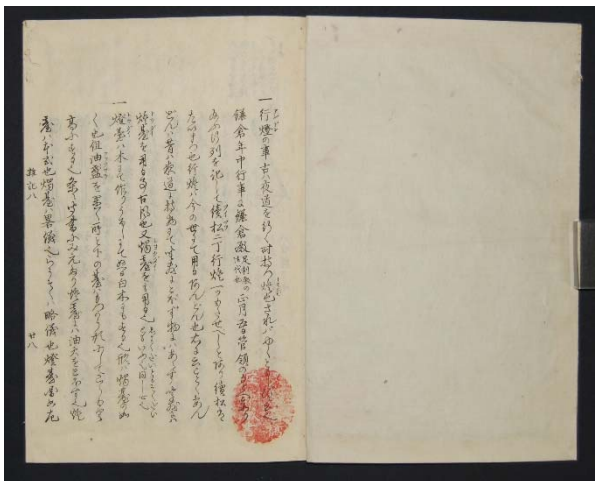
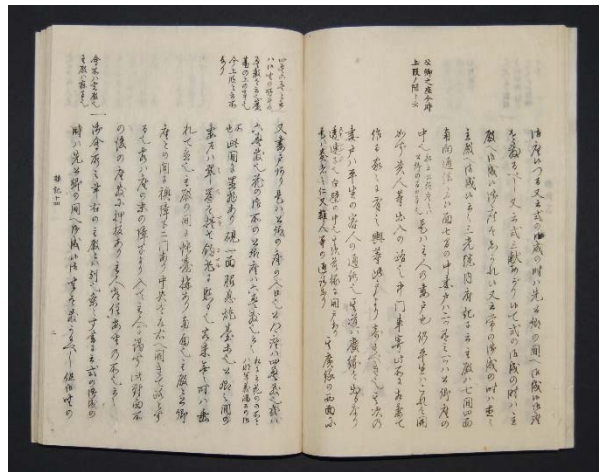
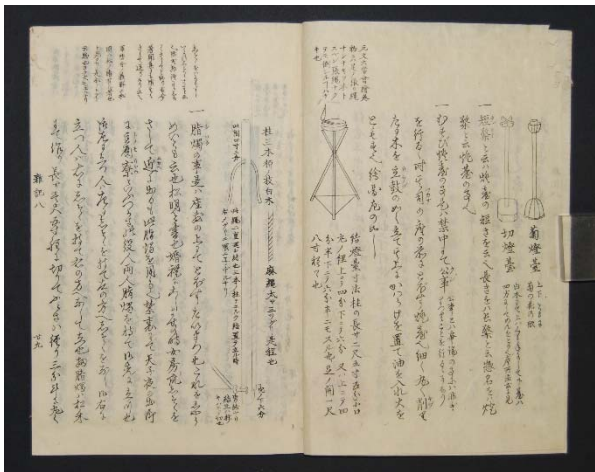
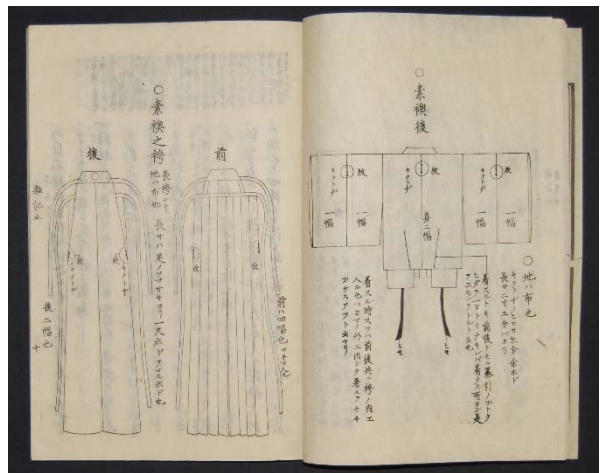
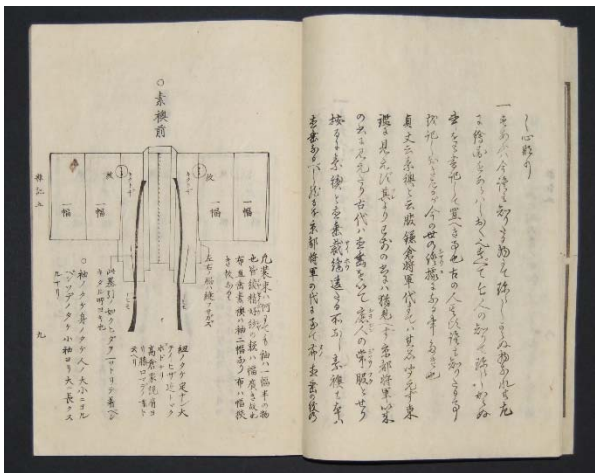
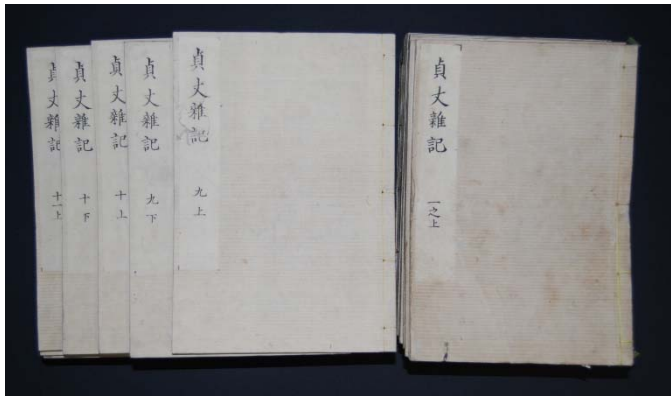
(2) 華南三彩刻花文水注



(3) 御當家御軍役書付



(4) 『貞丈雜記』



教 育 普 及 活 動

ふるさとの歴史再発見

高校生以上を対象に、歴史、考古、民俗・文化史、古文書の4コースの講座を下記の日程で開講。

定員：70名 / 受講料：各コース300円 / 時間：14時～15時30分

(1) 考古のコース 期間 4月～6月 各指定の土曜日 受講申込者数(62人)受講者総数(278人)

実施日	内容	講師	受講者
4月11日	考古資料から見たイヌ	中西武尚(当館職員)	56人
25日	戦国時代の府内のまちの様子と地震痕跡	松浦憲治(当館職員・埋蔵文化財保存活用センター)	44人
5月9日	戦国大名の館に築かれた庭園 —大友氏館跡・庭園遺構の特徴は何か！？を探る—	五十川雄也 (当館職員・埋蔵文化財保存活用センター)	44人
23日	豊後における古代のお役所最新情報	長直信(当館職員・埋蔵文化財保存活用センター)	44人
6月14日	佐伯に残る中世の山城・近世の山城	福田聡(佐伯市教育委員会社会教育課文化振興係主任)	42人
27日	弥生時代をのぞき見る	佐藤道文(大分市教育委員会文化財課)	48人

(2) 歴史のコース 期間 7月～9月 各指定の土曜日 受講申込者数(61人)受講者総数(263人)

実施日	内容	講師	受講者
7月11日	江戸時代の太友家	武富雅宣(当館館長)	45人
18日	太友宗麟とキリシタン文化	大津祐司(大分県立先哲史料館主幹研究員)	47人
8月1日	臼杵藩の歴史資料	岡村一幸(臼杵市文化・文化財課主査)	38人
29日	ザビエルの肖像	福岡加容(当館職員)	43人
9月12日	生類供養と日本人	長野浩典(大分東明高校教諭)	43人
26日	動植物写生図にみる賀来飛霞の本草研究	平川毅(大分県立歴史博物館主任学芸員)	47人

(3) 民俗・文化史のコース 期間 11月～1月 各指定の土曜日 受講申込者数(47人)受講者総数(127人)

実施日	内容	講師	受講者
11月7日	第一次世界大戦とドイツ兵大分俘虜収容所	古賀瑞枝(当館職員)	34人
11月21日	文教の地杵築と重光家	細井雅希(きつき城下町資料館)	33人
12月5日	湯あみ祭り～鉄輪温泉と一遍上人～	静海亜里紗、山口香澄(別府大学民俗学研究室)	35人
12月19日	日本の酒～酒作りの技術	内野嗣昭(当館職員)	25人

(4) 古文書のコース 期間 1月～3月 各指定の土曜日 受講申込者数(70人)受講者総数(270人)

実施日	内容	講師	受講者
1月23日	日本山海名物図会	古賀瑞枝(当館職員)	56人
2月13日	〃	古賀瑞枝(当館職員)	54人
27日	〃	武富雅宣(当館館長)	53人
3月12日	〃	武富雅宣(当館館長)	51人
26日	〃	武富雅宣(当館館長)	56人

ふるさとの歴史再発見受講者総数 891人

学校・団体の利用

大分市内の小中学校を中心に子ども会やPTA、家庭教育学級、児童育成クラブなどさまざまな団体による体験活動等の利用があった。

☆移動講座(出張歴史教室) 歴史体験学習をより多くの学校、団体に活用してもらうために、依頼のあった学校や公民館へ出かけて体験学習を実施した。

〈学校・団体体験等活動利用数〉

	利用団体数				利用者数				合計
					資料館		移動講座		
	学校	団体	移動	合計	児童・生徒	大人	児童・生徒	大人	
4月	2	7	0	9	1,175	189	0	0	1,364
5月	2	8	4	14	586	307	307	35	1,235
6月	7	2	7	16	322	91	392	114	919
7月	11	10	11	32	412	385	524	403	1,724
8月	0	9	4	13	245	212	78	58	593
9月	13	5	2	20	282	165	79	72	598
10月	25	2	6	33	2,830	415	730	473	4,448
11月	23	5	6	34	2,445	681	321	299	3,746
12月	3	3	2	8	331	124	0	35	490
1月	12	3	1	16	871	161	45	55	1,132
2月	11	10	3	24	465	605	275	36	1,381
3月	1	8	3	12	450	192	530	50	1,222
計	110	72	49	231	10,414	3,527	3,281	1,630	18,852

ふれあい歴史体験講座

親子や一般市民を対象に、下記の歴史体験講座を実施。

時間：午前9時30分～／午後2時～

回	実施日(土曜日)	内容	参加者数		
			子ども	大人	計
1	4/18	午前・午後 勾玉作り	87	50	137
2	5/16	午前・午後 粘土はにわ作り	19	16	35
3	6/ 6	午前・午後 土笛作り	35	34	69
4	6/20	午前・午後 管玉・丸玉作り	28	19	47
5	7/ 4	午前・午後 七夕作り	42	37	79
6	8/ 8	午前・午後 土面作り	52	39	91
7	8/22	午前・午後 粘土はにわ作り	63	41	104
8	9/ 5	午前・午後 紙かご	0	10	10
9	9/19	午前・午後 土の鈴作り	7	6	13
10	10/ 3	午前・午後 籐かご	1	16	17
11	10/17	午前・午後 土偶作り	13	9	22
12	11/14	午前・午後 粘土はにわ作り	31	22	53
13	12/12	午前・午後 勾玉作り	59	44	103
14	12/26	午前・午後 和風作り	38	31	69
15	1/16	午前・午後 土面作り	8	10	18
16	1/30	午前・午後 織物作り	32	46	78
17	2/ 6	午前・午後 折り紙雛作り	30	82	112
18	2/20	午前・午後 土偶作り	16	10	26
19	3/ 5	午前・午後 勾玉作り	71	66	137
合 計			632	588	1220

体験講座	材料費
勾玉作り	220 円
粘土はにわ作り	230 円
土笛作り	60 円
管玉・丸玉作り	270 円
和風作り	220 円
カゴ編み	430 円
土面作り	140 円
土の鈴作り	60 円
織物作り	100 円
土偶作り	180 円
折り紙雛作り	300 円
七夕飾り	無料



織物



粘土はにわ作りの様子



織物作りの様子

昔のおもちゃで遊ぼう！

子どもの日に昔ながらの手作りおもちゃで遊んでもらう体験講座を実施した。人気の大正 2 年に作られた消防ポンプ「竜吐水」による放水体験も行った。

実施日：5 月 5 日（火） 9 時～16 時

料 金：無料

内 容：昔のおもちゃ（折り紙飛行機・割箸紙飛行機・竹トンボ・ブーメラン・竹馬・竹カップ・こま・竹弓矢・羽子板・シャボン玉・水鉄砲・竹アーチェリー・わなげ・ゴム鉄砲・切り紙・糸電話・ぬりえ・数珠玉・お手玉・おはじき）、竜吐水 参加者：279 人（大人 126 人／子ども 153 人）



竹馬に挑戦



竹弓矢を楽しむ



竜吐水の放水体験

勾玉作り教室

夏休みと秋の土日に、事前申込不要で、随時勾玉作りを楽しんでもらえる講座を、計 4 回実施。 受付時間：9 時～11 時、13 時～15 時 材 料 費：1 セット 220 円

回	実施日	参加者数		
		子ども	大人	計
1	7/25(土)	85	59	144
2	7/26(日)	53	97	150
3	10/24(土)	57	52	109
4	10/25(日)	80	51	131
合 計		275	259	534



削り作業の様子



磨き作業の様子

夏休みジュニア歴史探検

小 4～中学生を対象に、バスで市内の史跡をめぐる歴史探検を実施。

実施日：8 月 3 日(月)9 時 30 分～16 時

内 容：古宮古墳・岩屋寺石仏・元町石仏・大友氏遺跡体験学習館・大友氏遺跡発掘現場

実施日	参加者数		
	子ども	参 観	計
8/3(月)	23	20	43



元町石仏覆堂前で記念撮影

職場体験学習の受け入れ

小6～中学生を対象に、資料館職員の仕事を体験。

	学校数	受け入れ日数	のべ人数
中学校	7校	15日	80
小学校	1校	1日	11
合 計	8校	16日	91



土器実測の様子



小学生体験活動の補助



体験講座の準備



火起こし体験の補助

歴史教育研修

夏休み・冬休み期間に、小・中学校教諭を対象に、資料館の体験活動や郷土の歴史について研修を開催。

時 間：9時～12時

実施日	内 容	参加者
7/31(金)	市内指定文化財の見学	7
7/31(金)	初任者研修	65
8/ 7(金)	資料館の体験活動	18
8/20(木)	大友宗麟を扱った授業	10
12/25(金)	鶴賀城での現地学習	12
	合 計	112



資料館の展示解説の様子

博物館実習

実習生1名を受け入れて、下記の日程・内容で実施した。

実施日	内 容	担当
7/24	施設運営と管理/教育普及活動 等	武富・小野
7/25	勾玉作り教室	志賀・中西
7/26	勾玉作り教室	志賀・中西
7/28	施設ガイダンス/体験学習講習	中西・志賀
7/29	資料の保存・管理・取扱い 等	松岡・古賀
7/30	体験学習講習	岩尾・合澤
7/31	企画展示/教職員研修参加	中西・小野
8/1	資料の整理・取扱い/講座聴講	中西・内野
8/2	資料の整理・取扱い/レポート	内野・古賀
8/3	ジュニア歴史探検実習 等	中西・小野

展示解説講座

テーマ展示及び特別展の展示品や内容をスライド等で解説する講座を実施。

時 間：14時～ 料 金：無料

実施日	内 容	参加者
5/10(日)	テーマ展示Ⅰ解説	36
8/ 2(日)	テーマ展示Ⅱ解説	35
11/ 1(日)	特別展解説	32
2/14(日)	テーマ展示Ⅲ解説	33
	合 計	136

ビデオライブラリー

館蔵ビデオ の上映サービス

を実施。

時 間：随時 料 金：無料

月	視聴者数		
	子ども	大人	合計
4 月	0	100	100
5 月	153	250	403
6 月	0	92	92
7 月	181	286	467
8 月	0	116	116
9 月	0	90	90
10 月	137	103	240
11 月	6	152	158
12 月	0	80	80
1 月	447	156	603
2 月	46	232	278
3 月	0	109	109
合 計	970	1,766	2,736

刊行物

名 称	規格	頁数	部数
歴史資料館ニュース 109 号	A4	4	6,500
〃 110 号	A4	4	6,500
〃 111 号	A4	4	6,500
第 34 回特別展図録	A4	40	1,000

※年報はホームページに掲載予定

大分市歴史資料館

ニュース

109

109 号

平成27年度テーマ展示
燬土の宝箱
—収蔵持統文化財—
4月16日(土)～6月第3週(日)

図史
文庫
史料
図録

大分市歴史資料館は、大分市にある歴史資料を収集・保存・展示する施設です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

大分市歴史資料館

ニュース

109

109 号

平成27年度テーマ展示
燬土の宝箱
—収蔵持統文化財—
4月16日(土)～6月第3週(日)

図史
文庫
史料
図録

大分市歴史資料館は、大分市にある歴史資料を収集・保存・展示する施設です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

大分市歴史資料館

ニュース

110

110 号

平成27年度テーマ展示
戦時下のくらしと戦後復興
—戦後を生き延びた子どもたち—
2月18日(土)～3月27日(日)

図史
文庫
史料
図録

大分市歴史資料館は、大分市にある歴史資料を収集・保存・展示する施設です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

大分市歴史資料館

ニュース

110

110 号

平成27年度テーマ展示
戦時下のくらしと戦後復興
—戦後を生き延びた子どもたち—
2月18日(土)～3月27日(日)

図史
文庫
史料
図録

大分市歴史資料館は、大分市にある歴史資料を収集・保存・展示する施設です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

大分市歴史資料館

ニュース

111

111 号

平成27年度テーマ展示
中世豊後府内の職人たち
1月16日(土)～4月3日(日)

図史
文庫
史料
図録

大分市歴史資料館は、大分市にある歴史資料を収集・保存・展示する施設です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

大分市歴史資料館

ニュース

111

111 号

平成27年度テーマ展示
中世豊後府内の職人たち
1月16日(土)～4月3日(日)

図史
文庫
史料
図録

大分市歴史資料館は、大分市にある歴史資料を収集・保存・展示する施設です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

本館の収蔵品は、大分市の歴史を伝えるための貴重な資料です。本館では、大分市の歴史を伝えるための様々な展示を行っています。

資料の利用・貸出

(1) 資料の利用提供

件 名	件数
熟覧・写真撮影	118 件
テレビ撮影・雑誌等の取材	43 件
印刷物掲載・写真貸与	61 件

(2) 資料の貸出

団 体 名	展示会名	点数
大分市美術館	大分発アヴァンギャルド 芸術都市の水脈～田能村竹田からネオ・タダまで～	4 点
大分県立先哲史料館	大友宗麟とキリシタン文化	1 点
きつき城下町資料館	木付城・藩主御殿、そして城下町「杵築」のはじまり	1 点
大村市立史料館	平成 27 年度特別展	9 点
大分県立歴史博物館	キリスト教王国を夢見た大友宗麟	8 点
八代市立博物館未来の森ミュージアム	交流する弥生人～邪馬台国の時代のやつしろ～	2 点
九州国立博物館	祈りのかたち 八幡	2 点

広報事業

平成 27 年度は、以下の施設等に総合案内・歴史資料館ニュースの配布・掲示等の P R 活動を実施。

学 校	小・中学校	91 校
	高等学校、大学	60 校
行 政	市役所関係	86 カ所
	県庁関係	4 カ所
	県内自治体	45 カ所
博 物 館	県外博物館	193 カ所
	県内博物館	23 カ所
	県外埋文等	75 カ所
そ の 他	賀来地区自治会（毎月）	21 地区
	市政記者クラブ（随時）	21 社
	県内マスコミ	18 社
	交通機関・一般施設等	48 カ所

市民学芸員の活動

市民や地域にとってより身近な資料館をめざし、24 年度より「市民学芸員」を募集した。27 年度は、18 人が登録し、古文書の解説と整理を行う「資料グループ」、来館者への展示解説を行う「解説グループ」、体験活動の指導を行う「体験グループ」の 3 つに分け、のべ 140 回にわたって活動した。



市民学芸員総会風景



解説グループの活動風景



体験グループの活動風景

歴史資料館利用状況

月別観覧者数

単位：人

年／月	開館日数	観覧者数									講座室利用者数									総来合館計者
		一般				団体				合計	一般		資料館講座			映画会		合計		
		大人	高校生	中学生	小学生	大人	高校生	中学生	小学生		大人	小中高生	歴史講座 解説講座	資料館 主催 体験講座	学校等 体験教室	大人	小中学生			
27/4	25	413	1	1	73	252	0	312	863	1,915	179	0	100	137	1,227	100	0	1,743	3,658	
5	27	474	0	3	91	431	0	11	575	1,585	146	0	124	314	921	250	153	1,908	3,493	
6	25	338	0	0	61	181	0	23	299	902	135	0	90	116	803	92	0	1,236	2,138	
7	27	509	8	10	102	424	0	52	338	1,443	164	11	92	373	1,351	286	181	2,458	3,901	
8	25	651	4	20	158	328	0	2	243	1,406	197	0	116	238	355	116	0	1,022	2,428	
9	26	686	3	9	59	230	0	25	257	1,269	130	0	90	23	575	90	0	908	2,177	
10	24	341	4	1	73	415	0	49	2,781	3,664	126	0	0	279	4,169	103	137	4,814	8,478	
11	22	936	2	7	147	841	0	2	2,540	4,475	123	0	158	53	3,693	152	6	4,185	8,660	
12	23	294	2	4	33	184	2	11	318	848	167	0	60	172	318	80	0	797	1,645	
28/1	23	361	2	4	71	205	0	0	871	1,514	156	0	56	96	1,036	156	447	1,947	3,461	
2	23	282	1	5	50	745	0	0	465	1,548	121	0	140	138	1,243	232	46	1,920	3,468	
3	27	402	4	6	62	225	1	0	77	777	138	0	107	137	1,085	109	0	1,576	2,353	
合計	297	5,687	31	70	980	4,461	3	487	9,627	21,346	1,782	11	1,133	2,076	16,776	1,766	970	24,514	45,860	

管 理 及 び 運 営

1. 歴史資料館協議会

第1回 開催日 平成27年7月30日(木)

会場 大分市歴史資料館 会議室

- (1) 委嘱状・辞令の交付
- (2) 委員・職員紹介
- (3) 議事
 - ①平成26年度事業報告
 - ②平成27年度事業計画及び経過報告
 - ③その他

第2回 開催日 平成28年2月26日(金)

会場 大分市歴史資料館 会議室

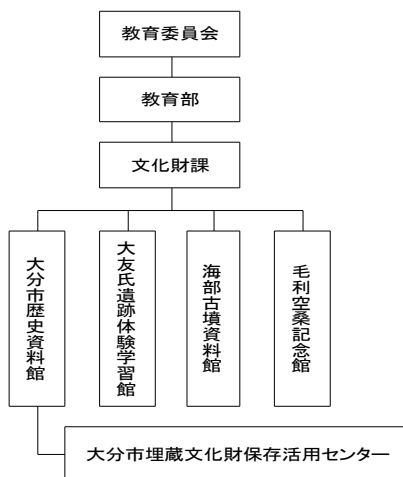
- (1) 議事
 - ①平成27年度事業報告
 - ②平成28年度事業計画(案)
 - ③その他

協議会委員名

氏 名	役 職	備 考
橘 昌信	元別府大学教授	学識経験者
豊田 寛三	別府大学学長	〃
橋本 靖彦	大分県立歴史博物館長	行政関係者
渋谷 忠章	元大分県立歴史博物館長	学識経験者
佐藤 聡美	大分市PTA連合会代表	社会教育関係者
古川 裕子	FM大分取締役編成制作部長	〃
松尾 敦雄	大分市小学校校長会代表	学校教育関係者
洲野 暢浩	大分市中学校校長会代表	〃

2. 組織機構・分掌事務・職員・歳入歳出

(1) 組織機構



(2) 分掌事務

- ①資料館の施設及び設備の維持管理並びに使用に関すること。
- ②歴史資料、考古資料、民俗資料等(以下「歴史資料等」という。)の収集、保管及び展示に関すること。
- ③常設展示及び特別展示の企画及び実施に関すること。
- ④歴史資料等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- ⑤歴史、考古、民俗等(以下「歴史等」という。)についての講演会、講習会、研究会、映写会等の開催に関すること。
- ⑥学校、図書館、公民館等の諸施設に対する歴史等についての協力及び活動の援助に関すること。
- ⑦歴史資料等についての案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の刊行に関すること。

(3) 職員

(平成28年3月31日現在)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	武富 雅宣	嘱託(顧問)	讃岐 和夫
副館長	安東 俊昭	嘱 託	岩尾 良美
グループリーダー 指導主事	小野 富広	嘱 託	合澤 昭子
参事補	河野 史郎 H27.10.1付転入	嘱 託	神志那 潔
主 査	高野 令子	嘱 託	福岡 加容
主 査	吉野 晃次 H27.10.1付転出	嘱 託	古賀 瑞枝 H28.2.29付退職
専門員	中西 武尚	嘱 託	内野 嗣昭
指導主事	志賀 良史	臨時職員	和田 広美 H27.9.30付退職
主査(再)	矢野 富幸	臨時職員	渡邊 まなみ H27.10.1付採用
主 事	松岡 健太	臨時職員	伊東 美恵 H27.10.1付転出

(4) 歳入歳出 (H27実績)

単位: 千円

歳 入		歳 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
観覧料・講座室使用料	558	管理運営費	36,320
歴史講座受講料	69	企画展費	5,868
図録売払代金	180	資料購入費	1,022
雑収入	1		
雇用保険徴収金	8		
計	816	計	43,210

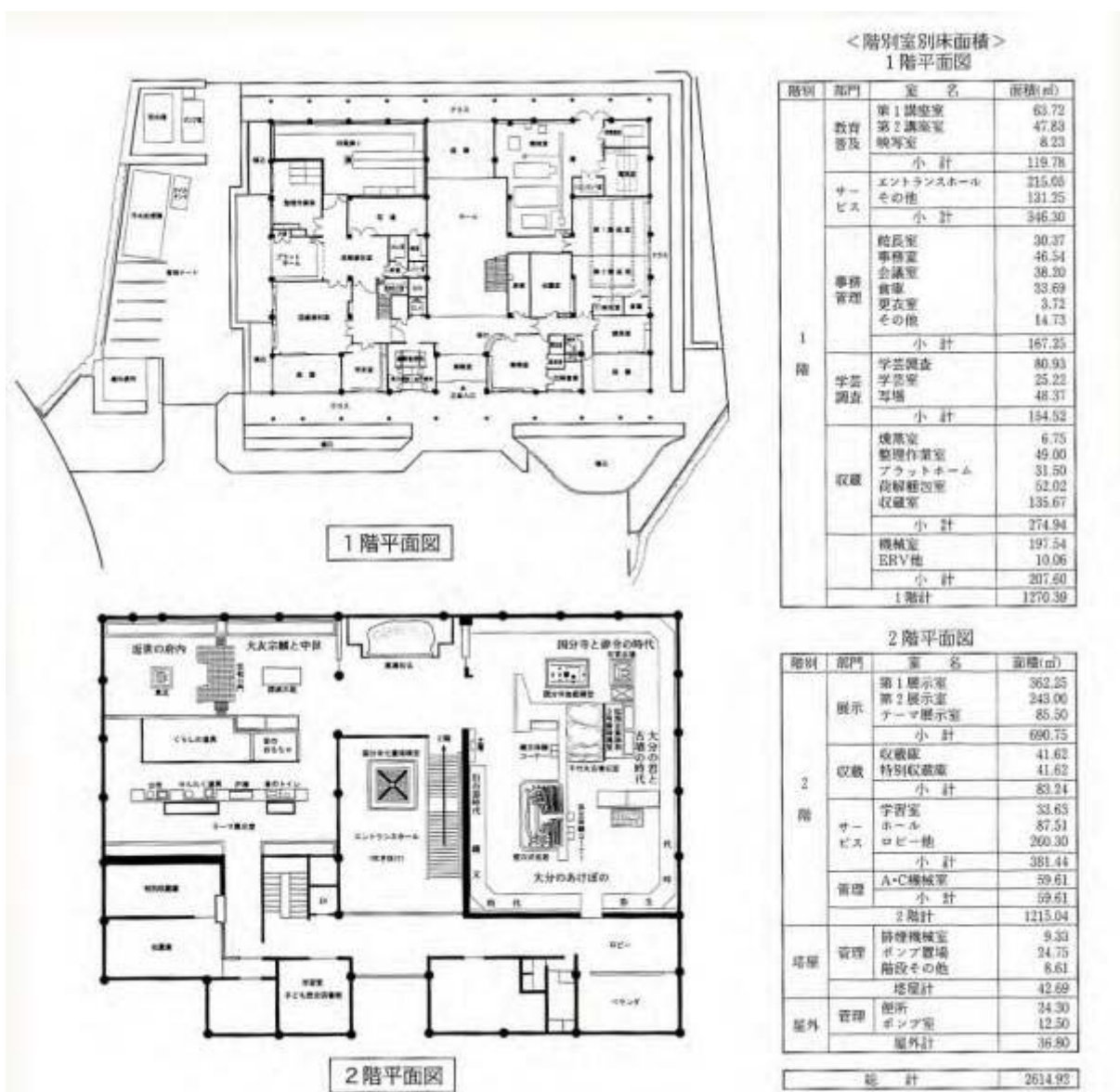
3. 施設管理業務の内容

(1) 施設管理業務の一部委託

- ①警備……………総合警備保障㈱
- ②清掃(館内及び受水槽・高架水槽)
……………(有)日本ビルサービス
(館外)……………(有)協和環境
- ③電気工作物保安全管理
……………日本電気保安㈱
- ④空調設備(冷暖房)保守点検整備
……………日本暖房鉄工㈱
- ⑤消防設備点検……………新日本消防設備㈱
- ⑥エレベーター保守点検
……………フジテック㈱西日本支社九州支店
- ⑦自動ドア保守点検……………大分ナブコ㈱
- ⑧浄化槽維持管理……………(有)大分サントリー
- ⑨地下灯油タンク等漏洩検査
……………(有)二豊サービス

- ⑩モニターカメラ設備保守点検
……………J & K ビジネスソリューション㈱
- ⑪ボイラー保守点検……………日本暖房鉄工㈱
- ⑫展示資料及び収蔵庫燻蒸
……………(有)アトム商事
- ⑬燻蒸設備保守点検……………(有)環境技研
- ⑭歴史資料館緑地帯及び
豊後国分寺跡史跡公園管理
……………㈱九州グリーンサービス
- ⑮衛生害虫防除作業
……………㈱大分イカリテクノス

施設の概要



利 用 案 内

開館時間 9 時～17 時
(入館は 16 時 30 分まで)

休館日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）
ただし、毎月第1月曜日は開館し、
翌火曜日が休館（祝日は開館）
祝日の翌日
（土・日曜日の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）

観 覧 料 大 人 200 円（団体 150 円）
 高校生 100 円（団体 50 円）
 中学生以下は無料
 ＊団体は 20 名以上
 ＊特別展開催中は、別料金となる
 場合があります。

交通機関 JR久大本線
◎豊後国分駅下車：徒歩2分
大分自動車道
◎大分I.C・光吉I.Cよりともに
約15分



催しカレンダー

■ 休曜日

4月							5月							6月							7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2						1	2	1	2	3	4	5	6	7					1	2	3
3	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	3	6	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	14	15	16	17	18	19
18	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25
27	28	29	30				24	25	26	27	28	29	30	28	29						26	27	28	29	30	31	

▲ 7月～9月10日の土曜日は、祝日・振替日(文化祭前日)

8月							9月							10月							11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11				8	9	10	11	12			8	9	10	11	12	13	14
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
24	25	26	27	28	29	30	29	30						29	30						29	30					

● 11月～12月の土曜日は、祝日・振替日(文化祭前日)

12月							1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
24	25	26	27	28	29	30	29	30						29	30						29	30					

● 12月～1月の土曜日は、祝日・振替日(文化祭前日)

各種催し案内					
講座名	日時	内 容	料金	募 集	
 ふるさと見聞	14時～ 15時30分	大分に関するテーマを中心に外部講師、 当館職員が講演を行います。	二 ス 300 円	各コースの受講証1日～開始 前日の夜に後援会から に受付(多数の組合協賛)	
 ふれあい 歴史体験講座	午前:9時40分～ 午後:1時40分～	勾玉作りに参加し、はむわりなど各回 ごとに内容が異なります。(各回2時間)	材料費 無料	大分県・草津市 公民館(草津市東大分) 名前の応募も可	
 雛のおもちゃで 遊ぼう	5月5日(日) 10時30分～16時 (15時受付終了)	歴史資料科の広い実験教室で、竹、干矢、 竹矢、竹、干矢、プラマナなど手作りの おもちゃで、思い思い遊びます。	無料	参加は自由。 雛祭り前の必要は ありません。	
 勾玉作り教室	7月25日(日) 7月26日(日) 10時30分～12時 10月25日(日) 9時～11時 13時～15時	夏休み中の2日間の10月2日の日曜、お好ま しな曜日に参加して下さい。 (製作時間:1時間30分)	材料費 無料	参加は自由。 雛祭り前の必要は ありません。 1時間以上参加費を支 付。マクセルをご用意下さい。	
 夏休みジュニア 歴史講座	8月3日(日) 9時30分～ ～15時30分	能登や史跡の探検、勾玉作りなどの歴史 体験を行います。	材料費 無料	対象:小学4年生以上 応募:7月中旬～中学生 以上(多数の組合協賛)	
 展示解説講座	5月10日(日) 8月2日(土) 11月1日(土) 2月14日(日)	テーマ展示「1階の宝箱-戦国戦国文化展」 テーマ展示「9階の地下-戦国文化展」 特別展示「日本大図録-イメスタの歴史」 テーマ展示「日本書道博物館の蔵人たち」	無料	参加は自由。 事前予約の必要は ありません。	

※各講座を受講された方は、観覧料が無料になります。
※各講座の詳細応募方法は、市報・大分市のホームページでお知らせします。



大分市歴史資料館年報

2016

発行日 平成 28 年 7 月 26 日

編集・発行 大分市歴史資料館

〒870-0864 大分市大字国分 960 番地の 1

TEL(097)549-0880 FAX(097)549-5766
